

若林

WAKABAYASHI

「わが社の防火防災活動」

弘進ゴム株式会社 総務部長 岡崎 政俊

弊社は昭和10年から仙台に本社を構えてゴムや樹脂製の長靴、合羽、ホースやシートの製造・販売を行う老舗企業のひとつです。

現在、工場は県南の亘理町に集約するとともに他社協力工場に移管しましたが、平成の初めまでは古城（現在の若林区古城）に本社工場を持ち生産を行っていました。

長い歴史を持つ弊社ですが、一度大きな火災を経験した過去があります。昭和52年5月19日、今はなき本社工場の塗装場において、静電気によるスパークが原因で出火、塗装場は独立耐火構造だったため、他に延焼することなく鎮火しました。不幸中の幸いで負傷者や生産に大きな支障が出ることはありませんでしたが、当時の西井弘社長（前会長 令和3年逝去）は、この経験を忘れることなく次代にもつないでいかなければならないとして、毎月19日を「防火デー」と制定しました。「防火デー」には工場長を筆頭に、安全衛生委員会からの選抜メンバーによる職場巡視を行います。指摘事項や対処結果について事後的に記録に残すことはもちろんのこと、特に大切にしていることは、指摘事項はその場で現場と共有し、いち早い対処を求めることで記憶に刻みこむことです。無意識のうちに見過ごされてきたことを指摘することで気づきを与え、その場で対処方法について皆で考えることにより記憶に刻みこむ効果を狙っています。現在は亘理工場だけになりましたが、この防火デー職場巡視は継続して実施しています。

さらに防火に限らず、工場や事業所の安全確保には慣れは大敵です。現状に慣れてしまうことは油断を生むからです。慣れや油断への対策として、亘理工場と富山県にあるグループ会社工場との間で年一回毎回会場を移しながら“中央安全衛生協議会”を開催しています。会の中心はやはり職場巡視であり、「常日頃職場にない視点から見る」ことで気づきを得、慣れ油断への対策を行っています。この点では協会が主催する優良事業所等視察研修会に通じるものがあると自負しています。

継続こそ力、今後もこれらの活動を続けることで防火と併せ防災にも努めてまいります。



平成4年に工場部門（古城本社工場）を亘理事業所に集約



昭和52年5月19日 旧本社工場（若林区古城）塗装場（写真左端に写る建物）から出火



職場巡視の様（中央が工場長、委員会メンバーと指摘事項に関する検討）